みどりの風

令和６年１月９日発行
校　報　　６１５号
（みどりの風　１５７号）
練馬区立関町北小学校

世界に誇る日本人の気質を「学びに向かう力（メタ認知）」にしていく

校長　吉川 文章

新年あけましておめでとうございます。今年もどうぞよろしくお願いいたします。

様々な世界大会などの場面で、日本人選手がロッカールームを、日本人サポーターがスタジアムのごみを拾う行為が世界から賞賛されています。その度に「日本人のこのような姿に敬意を表します。驚いています」「日本人の素質は本当に素晴らしい」「私たちの国との差は歴然としている」などのコメントが現地や各国の SNS やニュースで流れます。ここで出てくる「素質」とは、「マナー、民度、素養、教養、道徳」などという意味で使われていることが多いそうです。６年生が社会科の歴史の学習で学びますが、日本が戦後、いち早く立ち直り、経済大国になった大きな要因のひとつとして、道徳教育をベースにした素質教育を重視したからだと言われています。

近年「日本の文化」や「日本ならではの振る舞い」が海外から高い評価を受け、日本人として誇らしい思いを度々するのはわたくしだけでしょうか。「礼儀」「挨拶」「規律」「緻密・精密」「勤勉」「謙虚」などの気質が称賛されていますが、このような人格形成の土台となるもののひとつとして、日本の学校教育が大切にしてきた「清掃活動」が海外の教育関係者から大きな注目を集めています。

学校生活において「自分たちが使う場所は、自分できれいにする」ことは、日本では当たり前の習慣ですが、世界のほとんどの国々の学校では、清掃は、プロの仕事であって、子供は勉強に専念すべきと考えられています。しかし、近年では、実に多くの国々が、日本の清掃活動の教育的な効果に注目し始め、それを見るためだけに日本を訪れています。「協調性」「感謝の気持ち」「環境保護の精神」「奉仕の精神」などを育てるために、清掃活動を取り入れ始めているのです。さて、世界のお手本となるべき本家本元の日本の我が校の取り組みはどうでしょう。

本校は、生活指導部を中心に計画的に清掃指導を行っています。各学年の発達段階に応じて、教室、廊下、靴箱を担当する低学年から徐々に図書室、専科教室、階段など分担を増やしていきます。各クラスでグループを作り、ほうきや雑巾、ちりとりなどの分担をローテーション表で明示し自主的な活動になるよう組織的な取り組みをしています。

しかし、清掃以外の時間で進んでごみを拾う、主事さんがきれいにしてくださったトイレを汚さないように心がける、給食準備の時間にホコリが舞わないよう静かに過ごすなど、清掃で身に付けたことを実感し、客観的に自分を見つめ、「後のことも考えて」「感謝の気持ちを行動に」「全体の環境を意識して」などの、いわゆる「メタ認知」に基づく行動レベルまで至っていないように感じます。せっかく、世界中の教育関係者から認められる誇るべき取り組みなのですから、われわれ大人が、「清掃＝ものを片付ける、きれいにする活動」の学校や家庭での教育的な効果に気づき、子供たちを教えていく必要があると感じます。

学校や家庭でできる以下のような取り組みが考えられます。学校では、学級会の話合い活動で掃除以外の教室環境の美化について具体的な約束事を決めて自主的な取り組み（ゴミ一掃プロジェクト）を始める。家庭では、「お米とぎ」「洗濯物たたみ」「おふろそうじ」など、お手伝いの分担をして家族のために責任をもって行うなどです。いずれの取り組みも、必ず肯定的な声かけをして行動の価値づけをすることは必須です。

わたしたち日本人は、元来、物を大切にし自然と共生してきた長い歴史があります。「もったいない」という言葉が世界共通語となったこと、スタジアムでごみを片付ける日本人が称賛されることからもそれのことがよくわかります。清掃に限らず、世界に誇る日本人の気質を「学びに向かう（メタ認知）」にしていくヒントは学校にも家庭にも探せば他にもいくらでもあります。学校と家庭で共通意識をもって、新校舎落成の機運にも乗り、年明けの新鮮な気持ちを追い風に、子供たちを共に育てていきましょう。